

## 目次等

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2022-04-22 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 東京女子医科大学学会 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10470/00033137">http://hdl.handle.net/10470/00033137</a>

## ■総説 各領域における分子標的薬の役割

- (1) がん領域における分子標的薬の役割…………… 倉持英和… 1- 7

## ■報告

片側けいれん・片麻痺・てんかん症候群を呈した

- Angelman 症候群の1例…………… 森 有以・中務秀嗣・佐藤友哉・  
西川愛子・伊藤 進・平澤恭子・永田 智… 8- 12

## ■第87回東京女子医科大学学会総会

公開シンポジウム「私たちはCOVID-19パンデミックをどのように乗り越えてきたのか？」

- 序文…………… 杉下智彦… 13

COVID-19と学生教育…………… 石黒直子・北川一夫・村崎かがり・

- 三谷昌平・山内かづ代・辻野賢治・加藤多津子… 14- 19

COVID-19と心とジェンダーへの影響…………… 坂元晴香… 20- 25

COVID-19の日本と世界の疫学的特徴と対応…………… 押谷 仁… 26- 33

## ■学会・研究会抄録

- 第365回東京女子医科大学学会例会（2022年2月26日）…………… 34- 42

# JOURNAL OF TOKYO WOMEN'S MEDICAL UNIVERSITY

(TOKYO JOSHI IKADAIGAKU ZASSHI)

Volume 92 Number 1 February 25, 2022

---

## Review: Molecular Targeted Drug

(1) The Role of Molecular Targeted Drugs in Cancer Treatment

Hidekazu Kuramochi. . . . . 1-7

## Report

A Case of Angelman Syndrome Who Suffered Hemiconvulsion-Hemiplegia-Epilepsy Syndrome

Yui Mori, Hidetsugu Nakatsukasa, Yuya Sato, Aiko Nishikawa,  
Susumu Ito, Kyoko Hirasawa, Satoru Nagata. . . . . 8-12

## The 87th Annual Meeting of the Society of Tokyo Women's Medical University's Symposium on "How Have We Made a Collective Response to the COVID-19 Pandemic in Japan?"

Preface for How Have We Made a Collective Response to the COVID-19 Pandemic in Japan?

Tomohiko Sugishita. . . . . 13

COVID-19 and Student Education

Naoko Ishiguro, Kazuo Kitagawa, Kagari Murasaki, Shohei Mitani,  
Kazuyo Yamauchi, Kenji Tsujino, Tatsuko Kato. . . . . 14-19

COVID-19 and Its Impact on Mental Health and Gender

Haruka Sakamoto. . . . . 20-25

Coronavirus Disease 2019 Epidemiology and Response in Japan and the World

Hitoshi Oshitani . . . . . 26-33

## Proceeding

The 365th Regular Meeting of the Society of Tokyo Women's Medical University

(February 26, 2022). . . . . 34-42

## 第 87 回東京女子医科大学学会総会

日 時：2021 年 9 月 25 日（土）13：10～15：30

会 場：オンライン会場〔Zoom ウェビナーと YouTube Live による同時配信〕

※総会は書面開催として行いました。

### 公開シンポジウム「私たちは COVID-19 パンデミックをどのように乗り越えてきたのか？」

座長（東京女子医科大学医学部国際環境・熱帯医学講座教授・基幹分野長）杉下智彦

1. 東京女子医科大学病院としての対応  
(東京女子医科大学総合内科学・総合診療科分野特任教授) 川名正敏
2. COVID-19 と学生教育  
(東京女子医科大学医学部長, 皮膚科学講座教授・基幹分野長) 石黒直子
3. 国立国際医療研究センターにおける経験  
(国立国際医療研究センター国際感染症センター長) 大曲貴夫
4. COVID-19 と心とジェンダーへの影響  
(慶應義塾大学医療政策・管理学教室特任助教) 坂元晴香
5. COVID-19 への日本と世界の対応  
(東北大学大学院医学系研究科微生物学分野教授) 押谷 仁

### 序 文

(国際環境・熱帯医学講座教授・基幹分野長) 杉下智彦

人類がこれまでに経験したことのない未知のウイルス, SARS-CoV-2 による新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) は, 経済のグローバル時代を反映し, 瞬く間に世界に広がり国内外の社会全体に強大な衝撃を与えました。2021 年 9 月 24 日現在, 累積感染者数は全世界で 2 億 3,100 万人, 累積死者数も 474 万人を越えました。我が国でも, 同日, 累積感染者数は 169 万人, 累積死者数も 1 万 7,400 人を越えました。近年類をみないパンデミックは世界のすべての地域と人々に想像を超える社会的, 経済的, 心理的な影響を与えました。

このような背景を鑑みて, 第 87 回東京女子医科大学学会総会では, 公開シンポジウム「私たちは COVID-19 パンデミックをどのように乗り越えてきたのか？」(2021 年 9 月 25 日オンライン開催) を企画させていただきました。国内有数の COVID-19 診療施設である東京女子医科大学として, パンデミックにどのように対峙し, 現場の努力と叡智を結集して乗り越えようとしてきたのか, ま

た国内外の第一線で活躍する専門家の皆様にご登壇いただき, その卓越した洞察力をご共有いただきたいと思います。

川名正敏先生 (本学特任教授) からは「東京女子医科大学病院としての対応」, 石黒直子先生 (本学医学部長) からは「COVID-19 と学生教育」と題し, 本学での医療と教育における現場の経験をご講演いただきます。また, 大曲貴夫先生 (国立国際医療研究センター) からは「国立国際医療研究センターにおける経験」, 坂元晴香先生 (慶應義塾大学) からは「COVID-19 と心とジェンダーへの影響」, 押谷 仁先生 (東北大学) からは「COVID-19 への日本と世界の対応」と題して, 世界を代表する専門家としての叡智をご講演いただきます。

まさにタイムリーな本シンポジウムを通して, ご視聴の皆様とともに来るべき未来のパンデミックに備える強靱な心構えと医療体制を構築したいと願っています。

## 第 365 回東京女子医科大学学会例会

日 時 2022 年 2 月 26 日 (土) 13:20~16:10

会 場 オンライン会場 [Zoom]

開会の辞  
挨拶

司会 (幹事) 清水京子  
(会長) 丸 義朗

令和 3 年度研究奨励賞授与式 ※2 月 15 日に学長室にて執り行います。

山川寿子研究奨励賞 (第 34 回)

1. リソソーム関連分子 Folliculin による造血幹細胞制御機構の解明

(解剖学 (顕微解剖学・形態形成学分野) 助教) 望月牧子

佐竹高子研究奨励賞 (第 30 回)

1. 二次性進行型多発性硬化症の早期診断における歩行機能検査の有用性について

(脳神経内科学分野 助教) 池口亮太郎

2. メチオニン代謝回路の変動による長寿命とその分子機序

(衛生学公衆衛生学 (環境・産業医学分野) 講師) 吉崎 (廣田) 恵子

中山恒明研究奨励賞 (第 8 回)

1. 脂肪幹細胞シートを用いた端側神経縫合における顔面神経再生研究

(形成外科学 講師) 新美陽介

令和 2 年度研究奨励賞受賞者研究発表 ※学会サイトで動画を配信しております。

山川寿子研究奨励賞 (第 33 回)

銀ナノ粒子による神経芽腫のプログラム細胞死の解明

(衛生学公衆衛生学 (環境・産業医学分野) 助教) 宮山貴光

中山恒明研究奨励賞 (第 7 回)

高齢者膀胱癌への外科切除の意義の確立

(消化器・一般外科 助教) 出雲 渉

第 16 回研修医症例報告会 13:25~16:10

[発表 5 分, 質疑応答 3 分/○発表者, ◎指導医]

開始の挨拶

(足立医療センター 卒後臨床研修センター長) 佐倉 宏

Block 1 13:30~14:18

座長 (足立医療センター内科) 小川哲也

1. 化膿性膝関節炎および敗血症性肺塞栓症を契機に発見された三尖弁に局限した感染性心内膜炎の 1 例

(<sup>1</sup> 卒後臨床研修センター, <sup>2</sup> 循環器内科, <sup>3</sup> 心臓血管外科, <sup>4</sup> 整形外科) ○小野真珠<sup>1</sup>・◎曾根麻衣子<sup>2</sup>・

相山 恒<sup>2</sup>・菊池規子<sup>2</sup>・鈴木 敦<sup>2</sup>・芦原京美<sup>2</sup>・

萩原誠久<sup>2</sup>・新川武史<sup>3</sup>・新浪 博<sup>3</sup>・桑島海人<sup>4</sup>・岡崎 賢<sup>4</sup>

2. 肺高血圧症を合併する心房中隔欠損症における欠損孔閉鎖の是非

(足立医療センター<sup>1</sup> 卒後臨床研修センター, <sup>2</sup> 心臓血管診療部) ○松山大輝<sup>1</sup>・◎重城健太郎<sup>2</sup>

3. 重症肺高血圧症を呈し, 胃癌による肺腫瘍塞栓性微小血管症と診断した若年男性の 1 例

(八千代医療センター<sup>1</sup> 卒後臨床研修センター, <sup>2</sup> 循環器内科) ○田中彩之<sup>1</sup>・◎長谷川瞬<sup>2</sup>

4. 新型コロナウイルス感染症の重症化予防における隠れ糖尿病診断の重要性  
(足立医療センター<sup>1</sup> 卒後臨床研修センター,<sup>2</sup> 内科) ○北川万梨子<sup>1</sup>・  
◎マーシャル祥子<sup>2</sup>・小笠原壽恵<sup>2</sup>・小川哲也<sup>2</sup>・佐倉 宏<sup>2</sup>
5. ベリムマブとミコフェノール酸モフェチルで寛解し、急速にステロイドが減量された  
再燃ループス腎炎の1例  
(<sup>1</sup> 卒後臨床研修センター,<sup>2</sup> 膠原病リウマチ内科,<sup>3</sup> 腎臓内科,<sup>4</sup> 病理診断科) ○原奈都子<sup>1,2</sup>・  
◎勝又康弘<sup>2</sup>・秋山健一<sup>3</sup>・唐澤一徳<sup>3</sup>・森山能仁<sup>3</sup>・内田啓子<sup>3</sup>・新田孝作<sup>3</sup>・種田積子<sup>4</sup>・針谷正祥<sup>2</sup>
6. デュロキセチン投与により生じた双極性障害の1症例  
(足立医療センター<sup>1</sup> 卒後臨床研修センター,<sup>2</sup> 麻酔科) ○清水恵利香<sup>1</sup>・◎有山 淳<sup>2</sup>・◎小森万希子<sup>2</sup>

## Block 2 14:20~15:08

座長(消化器・一般外科) 小寺由人

7. 肝障害を契機にメトトレキサート関連リンパ増殖性疾患の診断に至った1例  
(<sup>1</sup> 卒後臨床研修センター,<sup>2</sup> 消化器内科,<sup>3</sup> 病理診断科) ○根本彩夏<sup>1</sup>・  
◎高山敬子<sup>2</sup>・徳重克年<sup>2</sup>・種田積子<sup>3</sup>
8. 腎病変を合併したIgG4関連硬化性胆管炎の1例  
(八千代医療センター<sup>1</sup> 卒後臨床研修センター,<sup>2</sup> 消化器内科) ○蒲生彩香<sup>1</sup>・◎西野隆義<sup>2</sup>
9. Fontan術後のうっ血性肝硬変に認めた肝細胞癌門脈腫瘍栓の1例  
(<sup>1</sup> 卒後臨床研修センター,<sup>2</sup> 消化器・一般外科,<sup>3</sup> 消化器内科,<sup>4</sup> 循環器小児・成人先天性心疾患科,  
<sup>5</sup> 放射線腫瘍科,<sup>6</sup> 麻酔科,<sup>7</sup> 病理診断科) ○中山千尋<sup>1</sup>・◎有泉俊一<sup>2</sup>・小寺由人<sup>2</sup>・  
山下信吾<sup>2</sup>・加藤孝章<sup>2</sup>・本田五郎<sup>2</sup>・徳重克年<sup>3</sup>・  
篠原徳子<sup>4</sup>・唐澤久美子<sup>5</sup>・長坂安子<sup>6</sup>・長嶋洋治<sup>7</sup>・江川裕人<sup>2</sup>
10. 開腹術後にopen abdominal management およびIVRによる選択的血栓溶解療法を併用した  
上腸間膜動脈塞栓症の1例  
(足立医療センター<sup>1</sup> 卒後臨床研修センター,<sup>2</sup> 救急医療科) ○町田実斉<sup>1</sup>・  
◎小島光暁<sup>2</sup>・谷澤 秀<sup>2</sup>・中本礼良<sup>2</sup>・庄古知久<sup>2</sup>
11. 診断に難渋した肺癌腹腔内転移の1例  
(足立医療センター<sup>1</sup> 卒後臨床研修センター,<sup>2</sup> 外科,<sup>3</sup> 内科,<sup>4</sup> 救急医療科) ○原麻梨子<sup>1</sup>・  
◎浅香晋一<sup>2</sup>・島川 武<sup>2</sup>・大野秀樹<sup>3</sup>・小島光暁<sup>4</sup>・塩澤俊一<sup>1</sup>
12. 止血治療に難渋した悪性胸膜中皮腫の出血性十二指腸転移の1例  
(足立医療センター<sup>1</sup> 卒後臨床研修センター,<sup>2</sup> 内科,<sup>3</sup> 呼吸器外科,<sup>4</sup> 本院放射線腫瘍科) ○金納慶蔵<sup>1</sup>・  
細田麻奈<sup>2</sup>・岡部ゆう子<sup>2</sup>・木村綾子<sup>2</sup>・◎大野秀樹<sup>2</sup>・前 昌宏<sup>3</sup>・唐澤久美子<sup>4</sup>

<休憩 7分>

## Block 3 15:15~16:03

座長(八千代医療センター小児科) 武藤順子

13. 食道癌術後胃管気管瘻に対し気管ステント留置術を施行した1例  
(<sup>1</sup> 卒後臨床研修センター,<sup>2</sup> 呼吸器外科,<sup>3</sup> 消化器外科) ○小俣智郁<sup>1</sup>・◎井坂珠子<sup>2</sup>・  
光星翔太<sup>2</sup>・荻原 哲<sup>2</sup>・青島宏枝<sup>2</sup>・松本卓子<sup>2</sup>・工藤健司<sup>3</sup>・江川裕人<sup>3</sup>・神崎正人<sup>2</sup>
14. 取監中にボールペンを下咽頭に突き刺した縦隔損傷の手術例  
(足立医療センター<sup>1</sup> 卒後臨床研修センター,<sup>2</sup> 救急医療科) ○藤田朋宏<sup>1</sup>・  
◎谷澤 秀<sup>2</sup>・小島光暁<sup>2</sup>・庄古知久<sup>2</sup>

15. 妊婦の心肺停止に対して救急医療科と連携して死戦期帝王切開術を施行した1例  
 (足立医療センター<sup>1</sup> 卒後臨床研修センター,<sup>2</sup> 産婦人科) ○堀内 充<sup>1</sup>・◎赤澤宗俊<sup>2</sup>・橋本和法<sup>2</sup>
16. 穿刺排膿により *Streptococcus intermedius* が同定された頸部リンパ節膿瘍の1例  
 (足立医療センター<sup>1</sup> 卒後臨床研修センター,<sup>2</sup> 小児科,<sup>3</sup> 耳鼻咽喉科) ○葛山七花<sup>1</sup>・  
 ◎高橋健一郎<sup>2</sup>・余田敬子<sup>3</sup>・須納瀬弘<sup>3</sup>・大谷智子<sup>2</sup>
17. 運動による関節負荷が契機と思われる硬膜外膿瘍を合併した化膿性椎間関節炎の小児例  
 (<sup>1</sup> 卒後臨床研修センター,<sup>2</sup> 小児科,<sup>3</sup> 画像診断・核医学科) ○西田 悟<sup>1</sup>・  
 石黒久美子<sup>2</sup>・木原祐希<sup>2</sup>・◎佐藤孝俊<sup>2</sup>・石垣景子<sup>2</sup>・阿部香代子<sup>3</sup>・永田 智<sup>2</sup>
18. 新型コロナウイルス感染後に脱毛症を発症した乳児  
 (<sup>1</sup> 八千代医療センター卒後臨床研修センター,<sup>2</sup> 藤森小児科,<sup>3</sup> 八千代医療センター小児科) ○渡邊 啓<sup>1,2</sup>・  
 ◎藤森 誠<sup>2,3</sup>・◎高梨潤一<sup>1,3</sup>

総 評

ベストプレゼンテーション賞発表

(卒後臨床研修センター長) 坂井修二  
 (足立医療センター 卒後臨床研修センター長) 佐倉 宏

閉会の辞

司会(幹事) 清水京子

〔令和2年度山川寿子研究奨励賞受賞者研究発表〕

〔令和2年度中山恒明研究奨励賞受賞者研究発表〕

銀ナノ粒子による神経芽腫のプログラム細胞死の解明

(衛生学公衆衛生学(環境・産業医学分野))

宮山貴光

銀ナノ粒子はプログラム細胞死を誘導するため、がん治療への応用が期待されているが、種々のがん細胞における細胞死誘導メカニズムの解明には至っていない。小児がんの中でも体幹の交感神経節や副腎髄質から発生する神経芽腫は、難治性で予後不良であることから、病態メカニズムの解明と新規治療法の開発が待たれている。本研究では、ヒト神経芽腫のモデル疾患細胞である SH-SY5Y を用いて、銀ナノ粒子による小胞体ストレス/オートファジーの分子基盤と細胞死の関連を調べた。SH-SY5Y 細胞に 60 nm サイズの銀ナノ粒子を 0-100 µg Ag/mL の終濃度で 24 時間処理し、細胞死、リソソーム、小胞体ストレス/オートファジーの分子基盤を評価した。銀ナノ粒子単独処理と比較して小胞体ストレスシグナル PERK 経路の eIF2α 脱リン酸化を抑制するサルプリナルの併用により細胞生存率は有意に低下した。銀ナノ粒子単独処理でリン酸化 eIF2α, GRP78, p62 および LC3B-II の発現の増加とリソソーム内腔 pH の上昇が認められ、サルプリナルの併用で p62 と LC3B-II の更なる増加が認められた。以上のことから、銀ナノ粒子によるリソソームとオートファジーの機能破綻に、サルプリナルの小胞体ストレスが相加的に細胞生存率低下を引き起こしたと考えられる。

高齢者膀胱癌への外科切除の意義の確立

(消化器・一般外科)

出雲 渉

〔目的〕80歳以上の高齢者膀胱癌患者に対する膀胱切除の意義(安全性と妥当性)を明らかにすることを目的とした。〔対象と方法〕2000年から2018年までに膀胱切除を行った膀胱癌患者579例を対象とし、80歳以上(31例)と80歳未満(548例)の両群間で、術後合併症、補助化学療法完遂率、予後を比較検討した。〔結果〕両群間で術後合併症率、在院死亡率、補助化学療法完遂率、再発率、recurrence-free survival, disease-specific survival, overall survival (OS) に有意差は認めなかった(≥80歳:10%, 0%, 32%, 61%, 1.0年, 2.3年, 2.2年。<80歳:14%, 0.2%, 47%, 72%, 1.2年, 2.8年, 2.7年。全てP>0.05)。多変量解析では術前HbA1c ≥6.5%, CA19-9 ≥327 U/ml, 他臓器合併切除, 中/低分化型, R1切除, 補助療法未完遂がOSのリスク因子であり, ≥80歳は予後不良因子に含まれなかった。補助化学療法完遂のリスク因子は術前BMI<18.9 kg/m<sup>2</sup>, albumin<4.2 g/dl, 腫瘍径≥3.1 cm, Clavien-Dindo≥IIIで, ≥80歳はリスク因子として抽出されなかった。〔結語〕80歳以上の浸潤性膀胱癌患者に対する外科切除は80歳未満と同等の合併症, 予後のため許容し得ると考えられた。